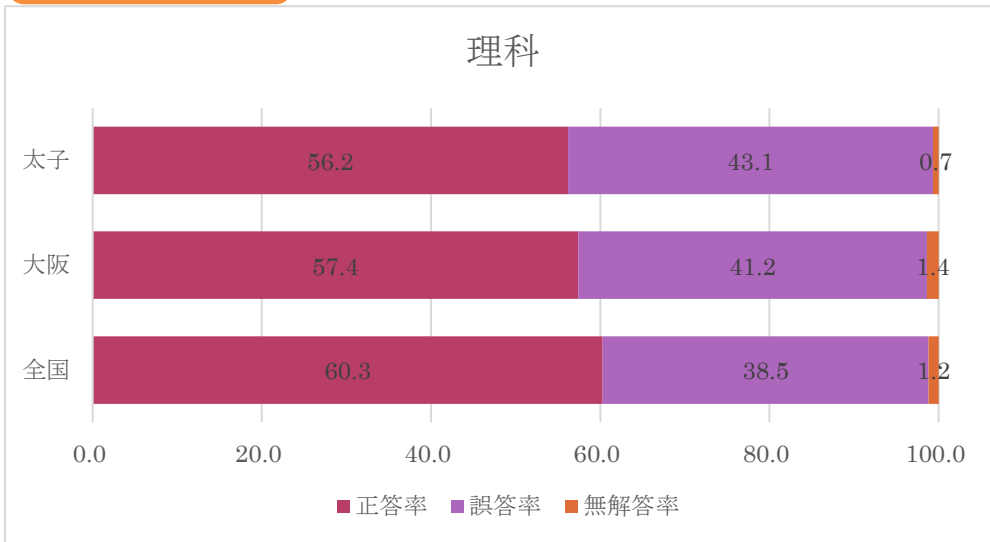


# 平成30年度 全国学力・学習状況調査 理科

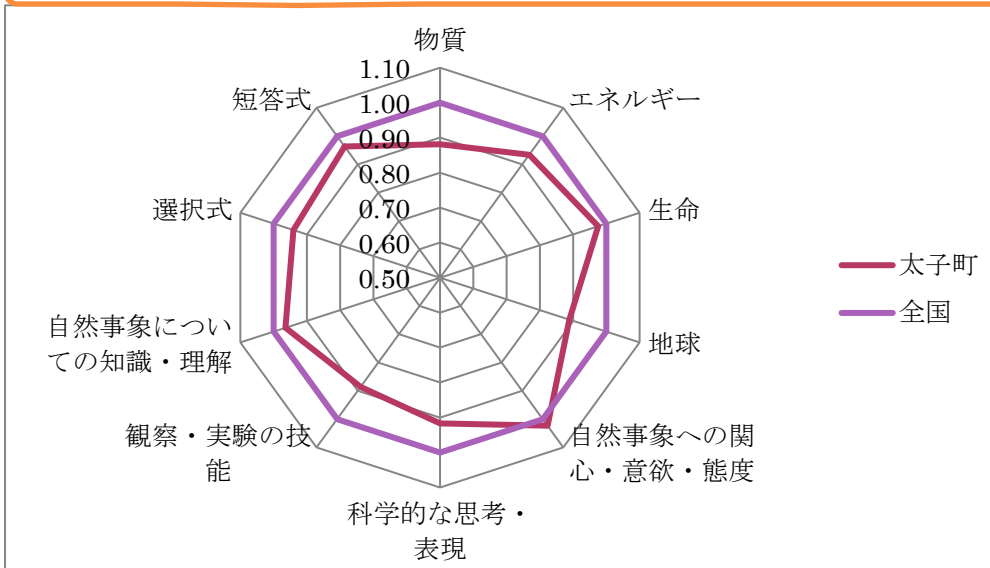
## 正答率比較



全国の平均正答率が60.3%であるのに対し、太子町の平均正答率は56.2%であり、-4.1ポイントという結果であった。

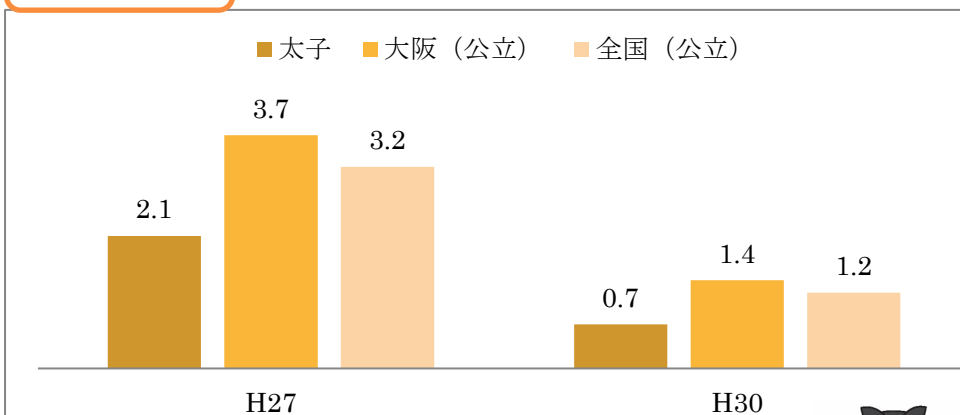


## 全国平均正答率を「1」としたときの太子町の平均正答率との比較



自然事象への関心・意欲・態度が全国平均を上回ることができた。一方で観察・実験の技能が、全国平均よりも低くなっており、授業の中で、観察、実験を通して、実感を伴った理解を行うことはもちろん、観察、実験の結果を整理し考察する学習活動を行うような授業改善をすすめたい。

## 無解答率



## 成果と課題

平成27年度と比べ、無解答率は減少した。書くこととする姿勢はたいせつだが、書く内容について、十分な力がついていない。

小学校理科では、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明することが求められている。授業の中で、「書くこと」につながる活動を定着させたい。

平成27年度と比べ、1.4%減少した。また、全国・大阪府と比べても、おおよそ半分である。

